

冬は雪に閉ざされる新潟。毎日体を動かそうとして考案されたのがクイックオリエンテーリングだ。

北信越室内オリエンテーリング大会
2014年7月20日 新潟県上越市



クイック0に挑戦する競技者。地図で示された地点を順序通りに回ってゆくという基本はポイントオリエンテーリングそのもの。

暗い冬を吹き飛ばせ

クイックオリエンテーリングは新潟県在住の藤島氏によって考案された。その発想の源泉は新潟県の気候にある。冬になると新潟県は晴れる日が少ないだけでなく、多くの雪が積もり屋外でのスポーツが困難な環境となる。スキーやスケートなどのウィンタースポーツをするほか、室内でできるスポーツで体を動かす以外にない。室内でオリエンテーリングができないものだろうか？ そうした考えの末に行きついたのが、体育館の中で実施できるオリエンテーリングの形式「クイックオリエンテーリング」である。(略称クイック0)

世界一小さなテレイン

クイック0で使用するテレイン広さは9m×9m。これはバレーボールのコートの半分である。多くの体育館ではバレーボール用のラインが床にマーキングされている。これを利用してコントロールの設置を簡単に行うことができる。

現在世界選手権で行われているオリエンテーリング種目で一番短いものはスプリント0であるが、これとて競技時間は10分以上、コース距離にして3000m以上である。これよりも短いオリエンテーリングは世界的に「スーパースプリント」と呼ばれ世界各地でいろんな形式で実施されている。体育館程度の広さを使用するものとして「ジムホール0」とか「ラビリンス0」が行われている。特にロシアでは「ラビリンス0」が盛んに行われているようだ。雪に閉ざされがちな地域という点では新潟と共通点がある。

さて、新潟発の「クイック0」はこれらと比べても世界最小のテレイン面積で実施され、その競技時間は1分程度である。



この大会ではSIカードを利用して通過記録とした。

北信越室内大会

梅雨明け間近の新潟県内で、このクイック0を使った北信越室内オリエンテーリング大会が開催された。東日本のあちこちでゲリラ豪雨が降ったこの日、室内大会がゆえに天候の心配は無かった。また当日の新潟県内は高温高湿の気候になり、屋外では熱中症の心配もあった。

参加者は、前日に北信越オリエンテーリング連絡協議会に集まったメンバ

ーを中心に地元上越市オリエンテーリングクラブのメンバーが参加した。

1回あたりの競技時間はあっという間だが、対戦トーナメント方式で繰り返し勝負し、そこそこ体を動かした。体感的には軽スポーツの印象だ。

商標登録の意図

「クイックオリエンテーリング」「クイック0」は藤島氏が商標として登録している。これは防衛的登録だと藤島氏は語る。クイック0の可能性を感じた藤島氏は、この名称を別の者が商標登録してしまうことを危惧したのだ。

それはロゲイニングで発生した、各種商標登録の動きが念頭にあったという。

防衛的商標登録

単純な「オリエンテーリング」という言葉は一般名称として流通しているために誰かが商標登録することはできない。だが「●●●オリエンテーリング」という造語は商標登録することができる。「クイックオリエンテーリング」という造語はこれにあたる。

ただしIOFが指定している4種目である「フットオリエンテーリング」、「スキーオリエンテーリング」、「MTBオリエンテーリング」、「トレイルオリエンテーリング」はもうすでに一般名称として流通している。これらは他者に商標登録されてしまうことは、まずなさそうだ。



競技が行われたのは午後。午前中はクイック0講習会が開催された。

(木村佳司)